

# 目次 (30題)

① 《論理的的文章》の読解と批評

1	村上陽一郎	「科学者とは何か」	15年度・熊本大	4
2	渡部信一	「ロボット化する子どもたち」	16年度・筑波大	8
3	姜尚中	「心の力」	16年度・富山大	12
4	鷺田清一	「(ひと)の現象学」	14年度・弘前大	17
5	鷺田清一	「しんがりの思想」	16年度・鹿児島大	22
6	天野郁夫	「日本の教育システム」	16年度・岐阜大	27
7	鎌田東二	「鎮守の森から見たトトロ論」	14年度・名古屋市立大	33
8	増井元	「辞書の仕事」	15年度・首都大学東京	38
9	大村敬一	「イヌイト・アート」	16年度・広島大	41
10	山極壽一	「『芸術Ⅱ文化システム』との関係で」	16年度・名古屋大	46
11	渡辺保	「私の歌舞伎遍歴」	15年度・九州大	50
12	西成彦	「バイリンガルな白昼夢」	16年度・金沢大	54
13	酒井邦嘉	「科学者という仕事」	16年度・大阪大	59
14	大庭みな子	「創作」	14年度・京都大	63

## はしがき

この本を手にとって見られた皆さんは、入試問題にどんな姿勢で臨んでいるのでしょうか。世間には、こうすれば正解にたどり着けるといった、いわゆるハウ・ツー的な情報がたくさんあります。繰り返しや強調表現あるいは接続詞に注目したり、傍線を引いて構造を考えたり、様々なスキルが提供されています。でも、そればかりに頼っていると、そのスキルが通用しない時には途方に暮れるしかありません。問題文をよく読んでください。大変味わいのある、また、考えさせられる文章が多いのに気が付くでしょう。国語の読解問題は、こんな文章を読んでほしい、こんなことを考えてほしいといった、大学の先生からのメッセージにふれています。受験勉強は、義務的にやるものではありません。読解力を高める絶好の機会であり、じっくりと考えを深める機会でもあります。正解への近道はありません。あるように見えてもその時だけの幻想にすぎないのです。

本問題集の特長として、厳選の上に所収された入試問題の豊富さがあります。読解力は一朝一夕に身につくものではなく、日々の積み重ねが必要です。そして、自らの進路実現を果たすための読解力をつけるには、それにふさわしい内容の演習を相当量こなすことが要求されます。本問題集では、長文かつ記述式の問題を多く採用していますが、それらはすべて最近の国公立大学入試の「良問」といわれるものばかりです。「良問」といわれる問題は、安易な本文要約や、解答らしきものが記されている箇所の語句を適当にまとめただけで、答えを導き出せるものではないことが多いのです。大学は、「自分はこの文をこう読みました。」「こう理解しました。」とはっきり記述している答案を求めています。

② 《文学的文章》の読解と鑑賞・批評

15	長田弘	「幸福という一語」	14年度・一橋大	65
16	市村弘正	「失敗の意味」	15年度・神戸大	69
17	三浦雅士	「私という現象」	15年度・大阪大	74
18	小林道憲	「芸術学事始め」	16年度・北海道大	78
19	松浦寿輝	「青天有月」	16年度・京都大	82
20	杉田敦	「政治的思考」	14年度・大阪市立大	86
21	池上哲司	「傍らにあること」	15年度・東京大	90
22	内田樹	「反知性主義者たちの肖像」	16年度・東京大	93
23	菊池寛	「入れ札」	16年度・岡山大	97
24	宮下奈都	「終わらない歌」	16年度・東北大	101
25	太宰治	「燈籠」	14年度・香川大	105
26	辻邦生	「十二の風景画への十二の旅」	15年度・広島大	109
27	石原吉郎	「望郷と海」	14年度・京都市大	113
28	黒井千次	「聖産業週間」	16年度・京都市大	117
29	佐藤泰志	「海炭市叙景」	16年度・大阪大	121
30	堀江敏幸	「青空の中和のあとで」	16年度・東京大	125

(注)出題年度は西暦下2ケタで表しています。  
例 14年度→2014年度

ます。理解できているかどうかが大事なわけですから、本文をこね回してよしとしている答案は評価されません。そのため、本問題集は、理解に至る「過程」を重視し、その「過程」を具体的に詳解することを主眼とした「解説」を心がけています。「何が書いてあるか」ということを理解するためのポイント、「何をどう書くか」という記述のためのポイントを分かりやすく解説することで、皆さんの読解力と記述力の向上に役立てることを確信しています。

平成二十九年三月  
新国語問題集編集委員会

### ●本書の特色と学び方

#### 〔本文〕

学習の方法を会得するのに、はっきりしたもの、高校生と密着した題材のものを選んだ。問題は、原則として易から難の配列になっている。

#### 〔問〕

要旨・主題に関する「問」を中心として、その問題の根幹となる設問に◎印をつけた。

#### 〔別冊・解答ノート〕

すべての解答が書き込めるようになっている。記述式問題で、設問に字数の指示がないものには、およその目安を「目安〇字」として設けた。参考にしてほしい。

#### 〔別冊・解答考察編〕

設問一つ一つについて、正解にいたるまでの考え方(過程の演習)を詳細に考察している。また、記述式設問には「採点基準」を設け、解答のポイントと、得点の目安を記している。